

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【タイトル】

デートオアアライブ 斉木デザスター5

【作者名】

たっつ

【あらすじ】

あらすじ O H A N A S H I U F U J U F U

第1話

あらすじ O H A N A S I I しようよ

シエルターからでてきて、先生からルームシェアをする土道の家についての道までをきいて家に着いたまでは良かった。

僕としたことが、土道から玄関の合鍵をもらっていなかった、さてまずここで僕が取るべき行動は3つある

1 サイコキネシスを使って扉を開ける

「何で鍵が？」

怪しすぎるだろう

2 鍵を壊してはいる

「何でかぎがこわれているんだ？」

まず非常識だろ

3 アポートで鍵を持ってくる

「あれなんで鍵があわないんだ？」

絶対におかしいな、土道の鍵を僕が持っていて家の中に入っていたら不審に思われる

仕方ない

僕はカバンからノートを取り出して紙に一分間念射した

しまった失敗だ。一瞬父の姿がいかんでしまった、鍵をポケットに入れて家の前でウロウロしている父の姿が映った。通報しろ

もう一度念写する。すると何故か戦艦が映し出された 恐らくあの時に土道を回収しに来た戦艦だろう

鍵のある部屋、戦艦でもう一度念写した部屋が映し出された

部屋には土道のカバンがある

「これだな」

と思い絵の戦艦をイメージして

戦艦にテレポートする

戦艦内部

ここは・・・戦艦の中か。さてまずは戦艦全部の監視カメラに催眠波を送って僕を見えなくして、レポートで取りに行くとするか。

鍵のある部屋の中

ふう、ようやく土道の鍵を手に入るな、ここまで長い道のりだったかな、

と思いながら鍵を取ろうとしたその時、

(琴里線超可愛い)

(琴里船長ペロペロしたいなあ、ロリコンだもの)

2人の男が鍵のある部屋に入ろうとしていた

!!

まずいな。この状況で今見つかってしまったら(なんで斉木が船内に)(詳しいことを聞かせてもらおうじゃない)と色々と尋問され、弱みを握られてしまう。そんな最悪なケースだけは免れなとな)

と思ったと同時にドアが開く

「.....」

「.....」

「誰もいないな」

「ああ」

「よし、サボるか」

仕事しろ、というか何しに来たんだこのふたりは、

僕は咄嗟に物陰に隠れた

「 琴里船長ってさもうすこし胸があったほうがよくな? 」

「 バッカお前そこがいいんだろつが 」

と言いながら雑談を話している

30分後

「 もう時間だな 」

「 そろそろ仕事しないと琴里船長に怒られるな 」
「 いい部屋から出ていった 」

やれやれ・・・雑談が長いぞあいつらしかも全部土道の妹の話題
だけで30分とかどんだけ好きなんだ

まあ邪魔者もいなくなったしようやく鍵が取れるな
さて、テレポートで土道のうちに帰るか

土道の家

やれやれ・・・今日は疲れたもう風呂に入って眠ろう、鍵はこれ
からは、貸してもらっておこう